

渡里湧水群とは

渡里湧水群は水戸の大地の北端、河岸段丘が那珂川の支川、田野川に落ち込む斜面の中腹から山裾にかけて、東西約700メートルの間に7か所の湧水が点在している場所で、私たちは親しみを込めて「渡里湧水群」と呼んでおります。

会員の多くが、子供の頃に上の大地から駆け下り、林や田野川で夕暮れまで遊び、のどが渇くと、湧水で渇きを潤したものでした。その頃このあたりには、田んぼやミョウガ畑などもあり、その中のあぜ道を飯富地区の農地への行き帰りに利用する住民もおりました。しかし、国道123号線が新しくなった頃から水田や畑がなくなり、通る人もいなくなりました。そして竹が繁茂し草が生茂り藤が絡まり、歩くのにも難儀するほど荒れてしまいました。

この状況を憂い、私たち地元有志6名が平成26年6月、昔の原風景を蘇らせようと「渡里湧水群を活かす会」を立ち上げたのです。地道な準備を進め、その年の9月に地域住民を対象に「視察会」を開催したところ130名からの参加があり、会員募集には正会員・賛助会員を合わせると、約100名を超える加入がありました。

会では、毎月第2日曜日を「湧水の日」とし整備活動を実施しております。昼なお暗く、先も見通せない程のあぜ道も、ほぼ1年がかりではありますが開通し、現在は湧水の整備、遊歩道の碎石敷き均し、ホタル生息地の整備、草刈り、竹の伐採などに毎月汗を流しています。

そうなのです、湧水群の一部にはホタルも生息していたのです。例年6月から7月の1日、地域を対象にして「ホタル観察会」も開催しております。いずれは、湧水とホタルを活かし、田野川までを含めた公園として多くの方々の憩いの場所になればと考えております。なお、平成27年からは水戸市との協働事業に採択されるなど、関係する各部署からたくさんのご指導とご協力、ご支援をいただいております。